



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2026年5月

販促・魅力発信

- 2026年3月11日(水)～12日(木)の2日間、**アジア最大級の食品見本市「FOODEX JAPAN／国際食品・飲料展」の機会を捉え、「ジェトロ食品輸出商談会 at FOODEX JAPAN」を開催、招へいた14カ国16社の海外バイヤーとの商談に臨んだ。**
- **岩手県、茨城県の水産・水産加工事業者含む日本の事業者209社が参加し、事前マッチング式による255件の商談が行われた。**

アジア最大級の食品見本市「FOODEX JAPAN2026」の機会を捉え輸出商談会を実施

■ ジェトロ食品輸出商談会 at FOODEX JAPAN概要

- ・日程：2026年3月11(水)～12日(木)、会場：東京ビッグサイト内会議室
- ・参加者数：岩手県、茨城県の水産・水産加工事業者を含む209社
- ・招へいバイヤー：14カ国16社（ブラジル、メキシコ、ペルー、英2社、伊、スイス、中国、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナム、豪2社、トルコ）
- ・岩手県、茨城県事業者の商談品目：ホタテ、ブリ、タコ、ウニ、ワカメ、メカブ等

■ サプライヤーによる主な評価

- ・事前にマッチング相手が確定しており商談準備がスムーズにできた。
- ・たくさんのご質問を頂き、関心を持っていただけることが伝わってきて有り難かった。このような機会を頂き、感謝。
- ・今まで実績のなかった新たな国、販路のバイヤーと商談が出来た。

■ バイヤーによる主な意見

- ・想定していなかった商品や価値を発見できる点が最大の魅力。
- ・優れた商品を多数発見し、顧客を同行したことで選定が大いに進んだ。顧客は現在、ミシュランのネットワークに対しこれらの商品をPRしている。



Foodex会場の様子



商談風景



商談風景

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載**。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

The screenshot shows a webpage titled "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water). It features a navigation menu on the left with questions like "ALPS処理水って何？本当に安全なの？" and "トリチウムって何？". The main content area is divided into sections: "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water), "ALPS処理水の分析結果" (Analysis results of ALPS treated water), and "東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）" (Monitoring results of the area around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (tritium in seawater and fish)).

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

現在の状態 ※

異常なし

- ※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えたときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の海の状態はどうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2025年12月15日から19日にかけて、IAEAの職員及び国際専門家（アルゼンチン共和国、英国、カナダ、韓国、中国、フランス共和国、米国、ベトナム社会主義共和国、ロシア連邦）が日本を訪れ、**ALPS処理水の海洋放出開始後5回目となる安全性レビューミッションを実施**しました。
- 2026年4月30日、**IAEA（国際原子力機関）は、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する報告書を公表**しました。
- **本報告書では、海洋放出開始後のこれまで4回の報告書と同様に、タスクフォースにより「関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった」ことが明記**されています。

主な評価結果

- タスクフォースにより、**関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった**。したがって、IAEAは、2023年7月4日の包括報告書に記載された安全性レビューの根幹的な結論を再確認することができる。
- タスクフォースは、ALPS処理水の放出に関する安全について、**原子力規制委員会が現地での立会いを含む効果的な規制監督を維持していることを強調した**。
- タスクフォースは、**機器及び設備が実施計画及び関連する国際安全基準に合致した方法で設置され、運用されていることを確認した**。
- タスクフォースは、東京電力と日本政府から報告されたデータの正確性と信頼性について、包括的で透明性のある独立した検証を提供する上で、**測定の質を評価する分析機関間比較及び放出前、放出中におけるトリチウム濃度の現地での速やかな検証に基づく、IAEAの継続的な裏付け活動が重要であることを指摘した**。

【経済産業省】 IAEAは、海洋放出開始後5回目となるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッションについての報告書を公表しました
<https://www.meti.go.jp/press/2026/05/20260501002/20260501002.html>

【外務省】 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関するIAEAレビュー報告書の公表
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03690.html

IAEAによるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー（海洋放出開始後5回目）については、以下のIAEAウェブサイト参照

【IAEA報告書】

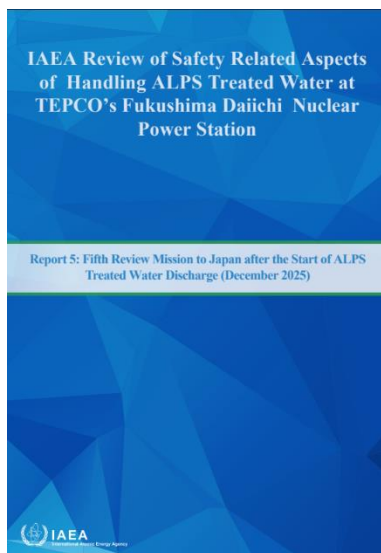
Report 5: Fifth Review Mission to Japan after the Start of ALPS Treated Water Discharge (December 2025)

<https://www.iaea.org/sites/default/files/2026-04/report-5-fifth-review-mission-to-japan-after-the-start-of-alps-treated-water-discharge-december-2025.pdf>

【IAEAプレスリリース】

Japan Continues to Meet International Safety Standards in ALPS Treated Water Discharge, IAEA Reports Confirm

<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/japan-continues-to-meet-international-safety-standards-in-alps-treated-water-discharge-iaea-reports-confirm>



- 2026年4月30日、国際原子力機関（IAEA）は、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングに関連して、**2025年6月にIAEA関係者、IAEAに選定された第三国分析機関の専門家及び東京電力によって採取された海水希釈前のALPS処理水の分析結果に関する報告書を公表**しました。
- 報告書では、IAEAの研究所、IAEAに選定された第三国分析機関及び東京電力が報告したトリチウム等の放射性物質の濃度の分析値と、その比較結果が示されています。
- 報告書において、各参加分析機関から報告された測定結果は、「**計画されたとおりのALPS処理水の海洋放出が人及び環境に与える放射線影響は無視できるほど**」とする**2023年7月公表の「IAEA包括報告書」の結論と整合している旨**、記されています。

参加分析機関

- IAEA福島ALPSラボ（IAEA）
- 中国原子能科学研究院（CIAE・中国）
- RPA「台風ーン」環境モニタリング問題研究所（IPEM・ロシア連邦）
- 韓国原子力安全技術院（KINS・韓国）
- ベルギー原子力研究センター（SCK-CEN・ベルギー）
- シュピーツ研究所（SPIEZ・スイス）
- 東京電力ホールディングス株式会社（TEPCO・日本）

【経済産業省】 国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書が公表されました

<https://www.meti.go.jp/press/2026/05/20260501003/20260501003.html>

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03692.html

IAEAによる2025年6月に採取された海水希釈前のALPS処理水の分析結果については、 以下のIAEAウェブサイト参照

【IAEA報告書】

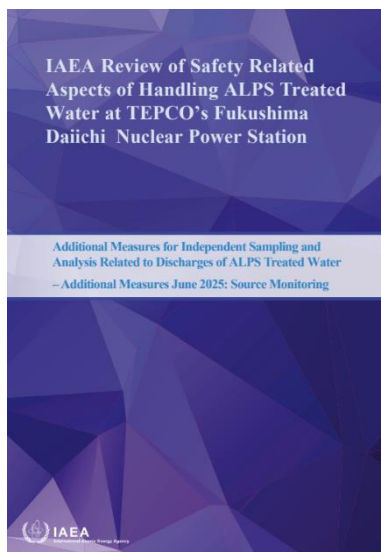
Additional Measures June 2025: Source Monitoring

<https://www.iaea.org/sites/default/files/2026-04/additional-measures-for-independent-sampling-and-analysis-related-to-discharges-of-alps-treated-water-additional-measures-june-2025-source-monitoring.pdf>

【IAEAプレスリリース】

Japan Continues to Meet International Safety Standards in ALPS Treated Water Discharge, IAEA Reports Confirm

<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/japan-continues-to-meet-international-safety-standards-in-alps-treated-water-discharge-iaea-reports-confirm>



- 2026年5月11日から15日にかけて、**IAEA（国際原子力機関）職員及び国際専門家からなるIAEAタスクフォースが来日し、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー**を行いました。
- 5月11日、12日及び14日、日本政府（外務省、経済産業省、原子力規制委員会、環境省及び水産庁）、福島県及び東京電力からは、**（1）ALPS処理水の海洋放出に関連する東京電力福島第一原子力発電所構内でのモニタリング及び海域モニタリングの概要や実績に関する情報提供、（2）これらのモニタリングの国際安全基準との整合性について説明を行い、IAEAタスクフォースとの間で議論**しました。



IAEAタスクフォース（日本側との議論）



グスタヴォ・カルーソ調整官
（IAEAタスクフォース団長）

【経済産業省】 IAEAタスクフォースにより、海洋放出開始後6回目となるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッションが行われました
<https://www.meti.go.jp/press/2026/05/20260515003/20260515003.html>

【外務省】 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関するレビューのためのIAEA職員及び国際専門家の訪日（結果）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03727.html

- 5月13日、**IAEAタスクフォースは、東京電力福島第一原子力発電所を訪問**し、東京電力から現地の最新状況について説明を受けました。
- IAEAタスクフォースは、（1）1号機から4号機までを俯瞰できる高台（ブルーデッキ）を訪れ、廃炉の進捗状況について説明を受けました。また、IAEAタスクフォースは、（2）ALPS処理水移送建屋、（3）放水立坑といったALPS処理水の海洋放出に関連するモニタリングを行うための設備、（4）タンクの解体を実施中のJ8エリア及び解体が完了したJ9エリアの現場確認を行いました。



ブルーデッキ



ALPS処理水移送建屋



放水立坑



J8・J9エリア

写真提供：東京電力

- IAEAは、2026年5月15日に、**Japan Continues to Meet International Safety Standards in Discharge of ALPS Treated Water, IAEA Task Force Confirms after Latest Mission**との件名で、プレスリリースを公表しました。

IAEAプレスリリース（一部抜粋）

The Task Force confirmed that **the discharge of ALPS-treated water into the sea has continued to be carried out safely and in line with international safety standards.**

（※経産省仮訳）タスクフォースは、**ALPS処理水の海洋への放出が、国際安全基準に沿って安全に継続して実施されている**ことを確認した。

【IAEA】 Japan Continues to Meet International Safety Standards in Discharge of ALPS Treated Water, IAEA Task Force Confirms after Latest Mission

<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/japan-continues-to-meet-international-safety-standards-in-discharge-of-alps-treated-water-iaea-task-force-confirms-after-latest-mission>

IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として 海水希釈前のALPS処理水の採取が行われました

販促・
魅力発信

理解醸成

安全確保

13

- 5月29日、**IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、試料の採取**が行われました。
- 今回の追加的モニタリングは、2024年9月に我が国とIAEAとの間で、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングを実施することで一致したことを受けて、2024年10月以降、**8回目として実施**されたものです。
- 今回の追加的モニタリングでは、東京電力福島第一原子力発電所構内において、**IAEA関係者、中国、韓国、ロシア連邦、スイス連邦の分析機関の専門家及び東京電力が、測定・確認用タンクから海水希釈前のALPS処理水を採取**しました。

【経済産業省】IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、東京電力福島第一原子力発電所構内において、海水希釈前のALPS処理水の採取が行われました

<https://www.meti.go.jp/press/2026/05/20260529002/20260529002.html>

【外務省】ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施（結果）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03770.html



安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

(参考) 原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年5月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：マイクロドローンによる3号機原子炉格納容器内部調査）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ (2026年5月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/ℓ)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

エリア	海水の測定結果 [単位:ベクレル/ℓ] (2026年4月1日～4月末までに得られた測定結果の最大値)
トリチウム [迅速測定**]	3km圏内 27
	20km圏内 検出せず(<8.4)
セシウム134**	3km圏内 検出せず(<0.93)
	20km圏内
セシウム137**	3km圏内
	20km圏内

【参考】トリチウム濃度の比較
 単位:ベクレル/ℓ
 国の規制基準(放出口)** 60,000
 世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドライン 10,000


※1:トリチウムの放出下限値(リットルあたり)1000000Bq
 ※2:福島県周辺海域における過去の最高濃度は、セシウム134:0.1、セシウム137:0.00028ベクレル/ℓ、0.45ベクレル/ℓ(出)

【<の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出されず(検出下限値未満)と表示されます。】

海域モニタリングの結果
 当社が測定した海水や海藻物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
 詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/monitoring/>

包括的・海域モニタリング
 当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制委員)および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**
 詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるO
<https://www.monitor.orb.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進



福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.56

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

燃料デブリの本格的な取り出しに向けて、3号機原子炉格納容器の内部を超小型ドローン(マイクロドローン)で調査しました。

マイクロドローンによる3号機原子炉格納容器の内部調査

- ▶2026年3月、3号機原子炉格納容器(以下、PCV)の内部において、燃料デブリの本格的な取り出しに向けて情報を収集することを目的に「マイクロドローン」で調査を行いました。
- ▶PCV内部へと繋がっている直径約14cmの貫通孔(X-53ベネ)からマイクロドローンを投入し、未調査のエリアを含むPCV内の広範囲を約11日間調査しました。
- ▶調査期間中、発電所の敷地境界にあるモニタリングポストのデータに有意な変動や周辺環境への影響はありませんでした。


今回の調査エリア
 ① ベDESTAL外
 ② ベDESTAL内

【ベDESTAL外】
 貫通孔(直径約14cm)を確認
 ベDESTAL内側に続く開口部

【ベDESTAL内】
 RRV底部とみられる構造物

3号機原子炉建屋 縦断面図

※1:制御棒の引込・挿入時にガイドする金属製の筒




原子炉圧力容器(以下、RPV)を支える台座(以下、ベDESTAL)の「外側調査」では、設備の大きな損傷や干渉物はないことを確認できました。

▶ベDESTALの「内側調査」では、RPV底部とみられる構造物を事故後初めて撮影しました。また、RPV内から落下した構造物(制御棒案内管*)が、横たわっている様子も確認することができました。

▶今後は、PCV内部のさらなる調査や燃料デブリ取り出し工法の検討を進めます。


※1:制御棒の引込・挿入時にガイドする金属製の筒




原子炉圧力容器内部調査についてはこちらをご覧ください
 ▶[3号機PCV内部調査] (マイクロドローン調査)
https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2026/d260326_27j.pdf

燃料デブリ取り出しについてはこちらをご覧ください
 ▶[燃料デブリポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/fuel-debris/index.j.html>

皆さまのご意見をお聞かせください
 ▶[廃炉に関するご意見・お問い合わせ]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>





東京電力ホールディングス株式会社
 福島第一廃炉推進カンパニー
 〒979-1501 福島県東磐前郡大内町大字北芝2-22